

地域おこし協力隊の活動紹介

図 SDGs移住定住推進課
(内線4224)



地域おこし協力隊とは三大都市圏などに住む人材を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、将来的には石巻への定住・定着を図る国の事業です。市では既に29人を委嘱し、退任した17人のうち、14人が市内での就労または定住に繋がっています。各隊員の活動内容などを紹介します。

私は、令和7年8月に石巻へ移住し、12月から地域おこし協力隊員として活動しています。石巻に住んでみると、豊かな自然や温かい人とのつながり、美味しい料理など、たくさんの魅力に出会い、毎日楽しく過ごしています。

現在は受入事業者である株式会社街づくりまんぼうのもとで、石巻まちなかエリアプラットフォームの事務局として、情報発信やイベントの企画・運営などを担当しています。今年7月には、石巻駅前で「まちなかウォークブル社会実験」を開催し、歩道にマンガを読めるコーナーや、『サイボーグ009』の主人公と並んで写真が撮れるフォトステージを設置するなど、まちなかのにぎわい創出に取り組みました。10月後半には第2弾を予定していますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。



- 隊員プロフィール 氏名 中山 結 任期 令和7年12月1日～(最大3年間)
- 出身 千葉県市川市(転出元:千葉県市川市) 前職 飲食業
- 主な活動内容 中心市街地活性化に向けた賑わいづくりイベントの企画や、まちづくりのプレーヤー発掘を行う
- 隊員になったきっかけ 大学生の時に石巻の復興創生インターンを受け、移住して新しいことを始めたいと思いました。

石巻市立桜坂高等学校 桜坂だより 第62号

7月17日・18日に桜華祭「かわいすぎて滅～うちら超ビジュイじゃん～」を開催しました。

校内発表では、3年生の代表者による探究活動の成果発表や実行委員企画としてクラスごとに平成をテーマにダンスパフォーマンスを披露しました。その後行われた中夜祭では、有志団体による歌やダンスのパフォーマンスが行われ、大いに盛り上がりました。



一般公開では、吹奏楽部や書道部、商業研究部による発表のほか、茶華道部のお点前、3年生クラスや部活動ごとの展示発表や模擬店が行われました。暑い中でしたが、たくさんの方に来場いただき、ありがとうございました。

おらほの博物館!



収蔵品紹介 秋の鹿が表された 「春日山八花鏡」

オスの鹿が夜空に向かって高らかに鳴いています。後ろには、鳴き声につられて来たのか、メスの鹿が2匹います。周囲にはすすきなどの秋草が生い茂り、夜空には大きな満月が浮かんでいます。酸化した銅の黒さが夜の静けさを暗示するとともに、鹿の高い鳴き声が遠く遠くへと響いているようです。

今回、紹介するのは、室町時代の様式を持つ銅鏡です。表側は像を映すために平らに磨かれていますが、今回は裏側の写真を掲載しています。舞台は、神鹿が沢山生息していることで有名な奈良県の春日山。秋は鹿の繁殖期であるため、オスの鹿は「ピー」「フィー」といった高い声を出してメスを呼んでいるのです。夜に悲しそうに鳴きながら妻となる鹿を探す様子に、昔の日本人は秋の訪れとともに哀愁を感じ取っていました。百人一首には、「奥山に 紅葉踏みわけ鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋は悲しき」という有名な歌があります。今秋は牡鹿半島に滞在して、鹿の鳴き声に秋の訪れを感じるのも一興かもしれません。

「春日山八花鏡」は、石巻の住吉で生まれ育ち、「古鏡」という雅号(現代のペンネームに近い風雅な名前)を名乗った毛利総七郎(1888年生まれ、1975年没)の旧蔵品です。博物館には現在、毛利家が寄贈した銅鏡が560枚あります。それらの一部は、11月14日(土)から令和9年3月7日(日)まで、博物館の毛利コレクション展示室で見ることができます。



デジタルアーカイブ
はこちら